

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
	Creating Opportunities for Online Language Learning
A11	
メンバー	[学生] 櫻田 祈星/山谷 雛莉/久留嶋 愛美香/奈良岡 咲希/吉田 帆波美/竹内 朝子 [担当教員] Andre Parsons

【背景】

私たちの地域プロジェクトでは、英語を学習するということに対して、授業などの限られた場や一般的に考えられる方法のみで能力を伸ばしてきたメンバーが多かったことから、言語学習の在り方を考えることにした。より自由な発想を元に、「学習」の固定概念にとらわれない学習環境で英語を学べるように、様々な方法を設けた。また、より広い視野で様々な角度から言語学習を捉え、より充実感のある機会を設けようと考えた。

【目的】

授業とは異なる角度から、より楽しく自主的に行える外国語学習を提供する。外国語学習を通して、学習者同士のコミュニケーションの機会を設ける。学習者の負担にならない程度の英語を、積極的に使用する学習環境をつくる。

【概要】

後期に北海道教育大学函館校の学生を対象として、自律的に外国語学習に取り組むアクティビティを5つ提供した。3つは対面で、残りの2つはオンラインで開催した。対面のアクティビティはすべて語学センターで行った。

1つ目は、「ハロウィンパーティー」という対面のアクティビティを10月31日の18時から開催した。海外の文化に触れながら、思ったことや感想を英語で伝えられるようになることを目標に据えた。

2つ目は、「英語でお絵かき」という対面のアクティビティを11月14日の18時から開催した。相手に伝わりやすい簡単な英文を聞き取り、書くことができるようにすることを目標に据えた。

3つ目は、「箱の中身は何だろう？」という対面のアクティビティを11月28日の18時から開催した。新しい語彙表現を身に着け、分かりやすく相手に伝えられるようになることを目標に据えた。

4つ目は、「英語でのメールの書き方」というオンラインのアクティビティを12月12日の18時から開催した。英語でメールやLINEを書くことができるようになってもらうことを目標に据えた。

5つ目は、「アルバイトで使える英語」というオンラインのアクティビティを12月26日の18時から開催した。働くなかで役立ち、お店で実際に使える英語を話せるようになってもらうことを目標に据えた。

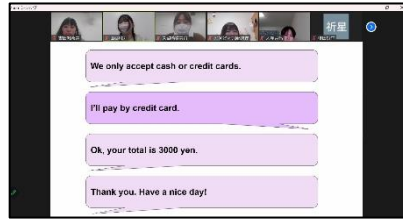
【プロセスと成果】

前期はクラスメートへのインタビューや北海道教育大学函館校全体を対象としたアンケートを通して、対面とオンラインのどちらの形式で行うか、活動の頻度や時間帯などのアクティビティ実行における様々なアイデアを得た。そのインタビューやアンケートを通して、学習者のニーズを明らかにする事ができた。そのニーズから、実現可能なアクティビティを考案した。そのアクティビティの開催に向け、必要な教材や開催する場所、アクティビティを通して参加者に何を身につけて欲しいかなどを考え、準備を進めた。

後期は前期同様、アクティビティの準備を進めながら、5つのアクティビティを開催した。後期では、各アクティビティに必要な教材を前もってインターネット等を通して手配したことで、アクティビティの開催を滞りなく、安心して迎えることができた。また、各アクティビティ終了後に、参加者にアクティビティのフィードバックをグループフォームにて実施し、それを基にアクティビティを改善させ、その他のアクティビティを向上させた。



【「ハロウィンパーティー」の様子】



【「アルバイト先で使える英語」の様子】



【「箱の中身はなんだろうな？」の様子】

【総括と反省・今後の課題】

前期は、以下のことを行うことができた。1 つ目は、順序立てたアクティビティの計画だ。対象者のニーズ分析を行った後にアクティビティの計画に取り掛かった。それは、理にかなった、適切な順序での決定過程だと言える。2 つ目は、メンバー全員の意見を取り入れることだ。全員で話し合いながら、アクティビティの準備をした。その際、誰かの意見に偏ることのないように意識し、担当教員の意見も取り入れながら準備を進めた。

後期は、計画していたアクティビティを実施した。参加者の反応や表情に注目した活動を意識し、学習要素を増やし、参加者が積極的に英語の知識を得る事ができるように取り組んだ。前期の活動と比較して、種類豊富なアクティビティの開催に向けて準備し、実施することが出来た。一方で、前期の活動と同様に時間が足りず、準備不足の場面も見られた。本番前に流れを全員で共有し、確認することの大切さを学んだ。活動を通して、授業とは異なる角度から、より楽しく自主的に行う事ができる外国語学習の提供ができた。参加者と開催者共に、アクティビティの楽しさを知った上での活動への挑戦だった。そのため、少しの余裕とより深まった興味・関心から得られた主体性によって、プロジェクトをさらに効果的なものにする事ができた。

今後の課題として、以下のことが考えられる。1 つ目は、アクティビティの参加者が少なかったことだ。この解決のために、宣伝方法を増やしたり、ニーズ分析を充実させ、参加者の興味・関心を引くアクティビティを考案する事が必要である。また、学生以外の市民にも宣伝を行い、対象者の幅を広げることも解決策の 1 つである。2 つ目は、開催における準備時間が不足していた事だ。前期の準備量を増やしたり、ハプニングを想定しながら、当日の流れを確認する事が必要である。3 つ目は、参加者が欠席する際に適切な対応ができなかったことだ。そのため、参加者が事前の連絡も無く欠席をする事があった。これを防ぐために、参加者の連絡先を事前に聞いておいたり、数日前にリマインドをしたりする事が必要である。また、開催者側への連絡方法を明確に提示しておくことも必要である。

【参加者からの評価】

参加者からは、普段英語を話す機会がなかなかないのでいい機会になったという感想をもらえた。また、日常に役立ちそうな英語を学べてよかったという感想ももらえた。アルバイトで使える英語を学んだアクティビティでは、飲食店以外に色々な職種で使う英語が学べるという意見をもらえた。

【年間スケジュール】

■前期

4～6 月 「オリエンテーション、アクティビティの発案・準備、アンケートの作成・実施、アクティビティの宣伝作成、アンケートの回答によるアクティビティの改善」

■後期

- 10 月～12 月 「アクティビティの準備」
- 10 月 31 日 「ハロウィンパーティー」
- 11 月 14 日 「英語でお絵かき」
- 11 月 28 日 「箱の中身はなんだろうな？」
- 12 月 12 日 「英語でのメールの書き方」
- 12 月 26 日 「アルバイト先で使える英語」

